

技能士社長!発見

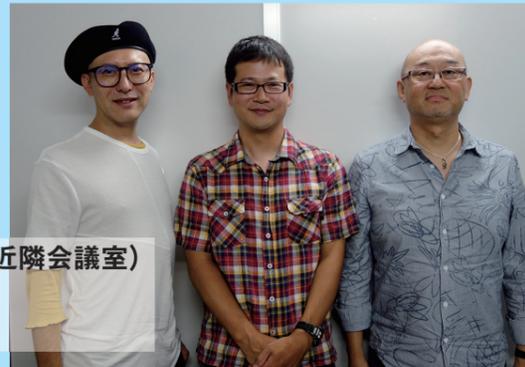
第4回



座談会：2019年8月24日15:00～18:00(東京駅近隣会議室)

パネラー：近江賢介、竹内一人、高辻俊之

司会：高垣博 インタビュアー：浅野卓



資格取得を振り返って

竹内：もうひとつお二人に質問があるんですけど、近江さんは知財技能士一級を直接受けられたんですか？

近江：その前にビジネス著作権。

竹内：ぼくは三級、二級、一級と順番に行ったんですけど、一級いきなりなんですか？

高辻さんもいきなり二級ですか？

高辻：そうですね。三級の問題集を読んだら、三級とビジネス著作権は似ている感じでしたので、だったら最初から二級の方が良いだろうと思いました。

竹内：お二人はビジネス著作権を先に。

高辻・近江：そうですね。

竹内：ぼくはそれを受けてないんですが、知財技能士一級二級をいきなりっていうのはすごいなって思います。

高辻：ビジネス著作権検定の上級を取っておくと、受験資格があるんですよ。

竹内：あ、そうなんですか。

高垣：僕は逆に技能士を知った時点でそのベースになるあれがないじゃんと思ったんで、一番下から順番に受けていったっていう。

竹内：僕もそうですよ。三級から同じ道を一念発起で。コンテンツ側の人間からすると特許のところ全然頭の中に入ってこなくて困りました。これを言っているのかどうかわからないんですけど、一級よりも二級の方が勉強きつかったですね。一級は、業務の経験があれば、あらためて勉強しないといけな分野が限られてきますけど、普段接しない特許とか種苗とか、そういうところの話がね。

高辻：「種苗法」は、何故か頭の中に残らなかったですね。いくら問題集を解いても、するっと抜けてっちゃうのが不思議でした。(笑)

浅野：弁理士さんでも二級どまりって方、少なくないですからね。一級は、実務やっている人は、わりと簡単と言いますよね。

竹内：まあ、問題の当たり外れはあるっばいですけど、その試験年度によって。

浅野：問題見て、実務でやった、あれだって。なんだけど、忘れちゃってることもある。

高辻：種苗とかあったな一って思い出しました。

竹内：なかなかシュールだなと思って勉強しました。
高垣：これは仕事ではぜったい携わらないけれども。特許とか、ひょっとしたらビジネスモデル特許とかもあるからなんか触れる機会もあるかもしれないけど、種苗はたぶん仕事変えない限りはないだろうなと思いつつ勉強しましたね、私も。

浅野：私の仕事には関係しますが(苦笑)

高辻：ただ、よく勉強してみると一定の法則があるなっていうのが、何となく解ってきます。

何とかなら何年間という年数も、法律を作られる側が、他の法律も鑑みて作っているのだろうなと想像できます。

浅野：問題作る側としても、間違った問題は作りたくないから、一回しっかり検討して作った問題って、やっぱり使いまわしたいんでしょうね。

高辻さんって知財技能士ですって言って得したことありますか？

高辻：知財技能士と知的財産アナリストとの合わせ技で、信頼感などが得られているのかもしれない。

浅野：近江さんも？

近江：そうですね。僕も信頼感っていうところが大きいんじゃないかなと思いますね。「僕音楽の著作権詳しいです。実務でもやっています」ってだけじゃ、講義という形で学校で教えるには、依頼する方も頼みづらいんじゃないかなと思います。

僕みたいな下から雑草のように這い上がってきた人は、こういう資格があると客観的な評価の指標になるんじゃないかなと。

浅野：なるほどね。なんでそういう質問したかっていうと、よく知財技能士の資格って、独占業務もないし単なる能力証明にすぎないじゃないかっていう声もあるわけですよ。

高垣：知財技能士っていう試験のたてつけがそうですからね。

浅野：それで単なる能力証明だったらいらないよねって。社内みんなあいつができるって知ってるしとか。

高辻：ただ、大きい会社だったらそれこそ名刺だけで信用してもらえますんですけど、コンテンツのベンチャー企業ですと、やはり名刺だけ見ても分からないですよ。でもそうした中でも、技能士の資格がたとえば名刺に掲示してあると、「知財なども解っている人なんだ」とご理解頂けることは多いかと思えます。

浅野：自分で事業やってたり、自分で仕事を取るようになると、知財技能士の資格とか知財アナリストの名称が生きてくるんだと。

高辻：そうですね。全くおっしゃる通りですね。

浅野：なるほどね。じゃあみなさん、やっぱり知財技能士の資格で信頼上がったって感じなの？

近江：まあそうだと思います。

高辻：私も明らかにそうですね。

「著作権」にも詳しいんですとか聞かれたりもします。また、コンテンツ業界は、いわゆる悪い人も多んですよ。コンテンツゴロ的な。

だから、解っていない方に対して、不利な条件をふっかけるとか、残念ながらそういう人たちも多いです。ただ、資格を持っていると、そういう人は寄ってこない感じがしています。

浅野：なるほどね。それ、協会的には嬉しい発言じゃない？

高垣：うん、わかります。やっぱり国家資格ってものに対して日本人は信頼を寄せますから、まあ、それは大きいと思います。

でせっかく資格取れたから、会社の資格とかデータベースに入れられるようになってるんですけど、その時は設定されていなかったんで、人事に頼んで入れてもらいました。

浅野：アサツキ DK さんって、まさにコンテンツとか扱ってるのに、知財技能士は知られてなかったのかな。

高垣：そうですね、広告業界では、広告の資格ってあまりないですから。

ただ僕も、コンテンツのセクションの仲のいい人から知財技能士っていう資格があるってのを教わって、じゃあ取ってみようと思ってやったのがきっかけでしたので、全然知りませんでした。僕はいまのADK モーションズがADKのコンテンツ本部のころ、1年半前に異動してきたんですけど、その前は制作のコスト管理を8年ぐらやってたし、その前はキャスティングのディレクターだったんで、IPにそんなに詳しいわけではなかったのです。

資格が取れてIPの知見が持てた事は、異動の際には役に立ったのではないかと思っています。

浅野：社内でも有効と。

高垣：異動して改めて感じましたが、アニメのビジネスって契約書ビジネスじゃないですか。

高辻：アニメの話しでいうと、テレビアニメの多くは、



一次利用であるテレビで放送しても、全然儲からないんですよ。

ニュース番組などでしたら、テレビ局がスポンサーからお金をもらって、制作会社に制作費を拠出。制作会社としては制作費の粗利分が利益になります。関わっている会社がみなさん、WIN-WINの関係です。

一方、製作委員会方式などをとっている深夜アニメですと、アニメの放送枠を買うというところで、既に赤字になってしまうのですよね。

では、その赤字をどうするのかと言ったら、テレビ放送が宣伝としての位置付けで、そこから配信やビデオグラム、並びに玩具などの商品化に繋がっていきます。

ですので、契約や知財周りについては、非常に気をつける必要があると常日頃から思っています。

総括

高垣：今日は長時間色々とお話いただきましてありがと

うございました。

おふたり音楽業界で、おひとりアニメ関係ということで、業界は違えども同じコンテンツという部分では非常に共通する部分があったんだと思います。

あと、皆さん技能士社長として働いていて知財技能士の看板という部分が、独立されてお仕事で非常に有効だというのが非常に新鮮でございました。

こんな形でまとめでよろしいでしょうか。ほかに浅野副委員長から補足することありましたら。

浅野：私の感想なんですけど、近江さんが学生時代からずっとを音楽やられていてそれで飯を食っている、しかもその過程で知財技能士を取り入れて今はそれで信頼を得ながらさらに色々事業を少しずつ広げている、これがまず面白いなと思いました。

竹内さんは、いろいろ道をぐねぐね進んでいながら、でも結局今一番求められている分野に携わっている。今、コンテンツの幅が広がっているだろうということもあって、使えるその音楽の素材だとかがやっぱり少ないんだろうな。そうした時にフリーの業務用のライセンスラ



イブラリを、しかも海外で一番大きなところから持ってきたっていうのも、ご自身ではたまたまっておっしゃったけど、たまたまはないだろうっていうね。やっぱりその業界で一生懸命やってるからこそ、そういう情報も目に留まるんだし、そこが非常に面白くなって思いました。そして、コンテンツ業界はグレーなところもあるからって、さきほど高遠さんも竹内さんも同じこと言っていて、知財技能士っていうのが自分のビジネスの後ろ盾になっているっていうのも、あーなるほどなと思いました。高遠さんについては、多分世の中で独立される一番多いパターンだと思うんですね。企業でいろいろ蓄積して、ある程度できるようになったから独立しようかなっていう。逆に近江さんとか竹内さんみたいなタイプって、少ないと思うんですよ。

私も自分で会社やっているんですが、私はどちらかっていうと、近江さんとか竹内さんタイプなので、高遠さんみたいな経歴はうらやましいなって実は思っています。

会社で積み上げてきて、できるようになってから独立する。その独立のきっかけが知財技能士で、またビジネスコンテストのファイナリストだっていうのも、あーこういう道もあるんだなって思いました。

やっぱり独立する時に何かきっかけって必要じゃないですか。今ちょうど二年目ですか？

高遠：そうですねはい。

浅野：今ちょうど業務を模索してる最中なんて、おっしゃっていましたよね。

たぶんこれから芯ができてくるんじゃないかと思えますけど、竹内さんみたいにまたいろいろやりながらできてくるのかもしれませんが、聞いてて面白いなって。

私が生きたかった人生かもしれないなってちょっと思いました。

高遠：今からでも遅くはないと思いますけど。

浅野：さすがに遅いんじゃない？

高遠：いやいやいや。

浅野：今日は、我々コーディネーター側なんですけど、途中から少し読者目線で聞いてました。どうもありがとうございました。

高遠：いえいえこちらこそありがとうございました。

高垣：ありがとうございました。

(座談会終了)

「知的財産管理技能検定」は幅広い層、多様な業種の方々が受検しています

累計受検者数は約36万人！

知的財産管理技能検定は、2008年7月に第1回検定が実施されました。

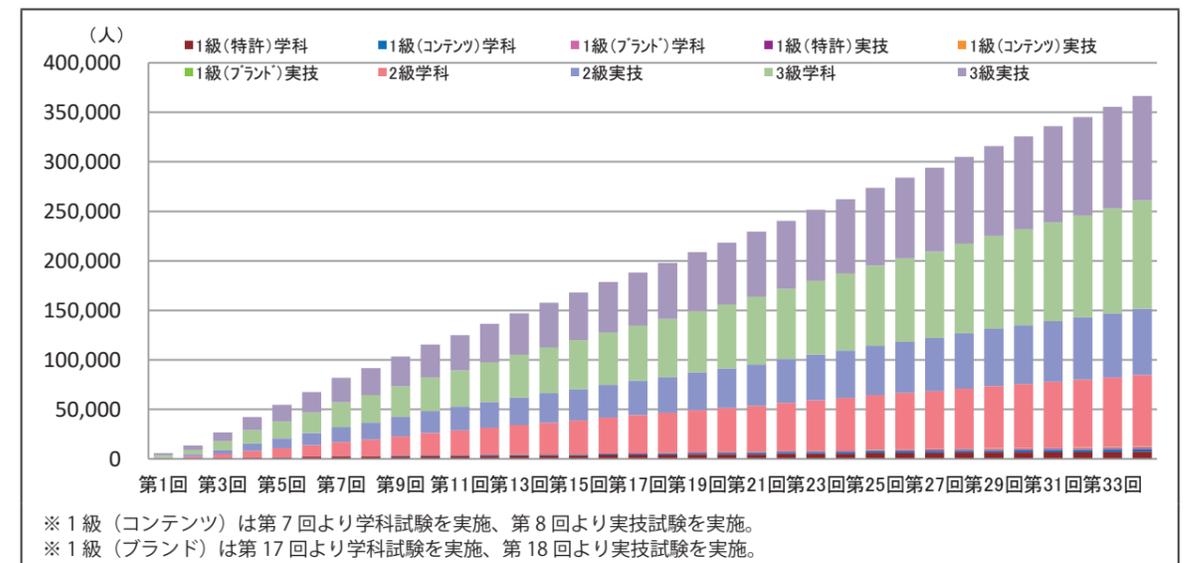
これまで、メーカーの知財部の他、情報・通信、コンテンツ業界、金融業など幅広い業界・職種から受検者が集まっています。また、ビジネスパーソンだけではなく、学生の方も多く受検しています。

第34回検定（2019年11月実施）までの延べ受検申請者数は366,366人、2020年1月現在の技能士数は延べ103,553人です。

政府も推奨！ 企業の人材育成にも活用されています

知的財産管理技能検定は、3級から1級まで3つのレベルに区分されています。自分のレベルに応じて目標を設定して知財マネジメントを学ぶことができます。多くの企業が人材育成のツールとして積極的に活用しています。政府も、内閣府知的財産戦略本部が策定する「知的財産推進計画」において知的財産管理技能士の資格取得を奨励しています。

累計申込者数



受検者属性データ（受検者年齢・男女比）

年齢	1級(特許)	1級(コンテンツ)	1級(ブランド)	2級	3級
20以下	0.0	0.0	—	4.5	14.2
21～25	1.3	2.4	—	13.4	24.0
26～30	6.7	9.5	—	15.2	15.0
31～35	11.8	11.9	—	13.3	12.6
36～40	15.0	23.8	—	13.2	8.9
41～45	15.7	19.0	—	11.0	8.2
46～50	17.4	11.9	—	12.5	7.4
51～55	14.4	14.3	—	8.2	5.4
56～60	11.4	7.1	—	6.2	3.0
61～65	5.0	0.0	—	1.9	0.9
66以上	1.3	0.0	—	0.7	0.4
平均年齢(歳)	45.2	41.5	—	37.9	32.3
男女比	76.4%/23.6%	78.6%/21.4%	—	64.2%/35.8%	63.1%/36.9%

※第34回は1級（特許）実技試験、1級（コンテンツ）学科試験、1級（ブランド）学科・実技試験の実施なし。